

# 文科相の発言 機会均等侵す

萩生田光一文科相は28日、自身が出演したBS番組(24日)で、2020年度から大学入学共通テストを導入しようとしている英語の民間試験をめぐる「自分の身の丈に合わせて勝負してほしい」と発言したことについて「説明不足な発言だった」と弁明しました。年2回まで受験可能とすることで家庭の経済状況による受験機会の不公平を容認する発言として国民の批判の高まりに陳謝に追い込まれたものです。萩生田氏の発言に対する各界の怒りの声を紹介します。

## 人生に影響 だから公平に

FREE 高等教育無償化  
プロジェクト事務局長・  
大学4年

中野 典つなきさん(22)



萩生田光一文科相の発言は、ありえない内容です。いまの社会で、大学受験の結果は人生に大きな影響を与えます。だからこそ、受験は公平でなければなりません。

英語入試「改革」は、受験生の経済状況や住んでいる地域によって大きな不公平を生むものです。これは憲法が定める教育の機会均等を奪い、格差を再生産することにもつながります。教育行政の責任者が、率先して不公平な受験制度を進めようというのは許されません。

## 解決の道は導入延期・中止

東京大学教授(英米文学)

阿部 公彦こうひこさん



萩生田光一文科相の「身の丈」発言は、「説明不足」どころか雄弁に本音を語っていると思います。大学受験は「身の丈に合わせて」、つまり金銭的な条件など含め各人の環境に合わせてやれ、と格差を助

長ずる発言です。憲法の保障する教育の機会均等に抵触し、文科相が絶対言っていない言葉です。単に言葉の選択を間違っ

というわけではありません。萩生田さんは、制度の根本的な問題をわかっていないようです。民間試験を導入すれば、入試は業者の採算第一になり、受験生の都合は関係なくなります。そうした構造的な欠陥を理解していないことが「予備校に行く、行かない」という外れのたこえを使っていることからもうかがえます。萩生田さんは「課題を解決する」と言っているが、現実的には就任以来何も解決していません。大学共通テストへの英語民間試験の導入は、文科相も認める、金銭的な「身の丈」に左右される入試になっています。受験生に謝罪するならば、「不安を与えて申し訳なかったので、導入を延期・中止します」と言うしか解決の道はありません。

験導入について、「自分の言は誤解の余地なく、経